

集会アピール（案）

アジアの人々をはじめ、日本人にも多くの犠牲を強いた太平洋戦争が終わり、66年目を迎えました。8月15日は敗戦の日ですが、アジア・太平洋諸国の人々には日本の侵略戦争からの解放の日です。また、66年前の8月6日と9日に核の「軍事利用」で被害を受けたヒロシマとナガサキに続き、再び、フクシマでは、核の「商業利用」で放射能被害を受け、命と健康が脅かされています。

私たちは戦争犠牲者を追悼するとともに、あらためて不戦の誓いと核廃絶、平和な社会を建設する決意を固めなければなりません。

戦前、韓国・朝鮮・中国などに対し侵略戦争と植民地支配を重ねた日本政府には、過去の清算にもとづく敵対意識の解消に尽くすことが求められていますが、未だ多くの課題が放置されたままとなっています。そればかりか、在日韓国・朝鮮・台湾の人々をはじめとする外国籍住民を治安管理の相手とみなし、重罰規定を課すとともに、高校授業料の無償化においては朝鮮学校をその対象から除外するなど法的制度的差別が続けられています。

さらには、太平洋戦争を「大東亜戦争」と称してアジア諸国を欧米の植民地から開放するための正義の戦争とし、南京大虐殺や日本軍「慰安婦」、沖縄戦における「集団自決」が日本軍による強制であることを否定するなど歴史を歪曲する「教科書問題」をはじめ、一部の政治家の相次ぐ歴史改ざん発言がくり返されるなど、偏狭なナショナリズムによる侵略戦争の賛美が行われています。

「新防衛計画の大綱」では、中国という新たな日米共通の敵をつくりだし、さらに、米軍が実施した「トモダチ作戦」は被災者支援の一方で、有事に備えた訓練を行い、在日米軍基地機能と日米同盟の強化をすすめています。

6月の「日米安全保障協議委員会（2プラス2）」では、「名護市辺野古に『V字』の滑走路を持つ代替施設の建設」や「鹿児島県馬毛島を新たな自衛隊施設として米空母艦載機発着訓練の使用」「『おもいやり予算』として毎年1881億円の5年間継続」「武器輸出三原則の見直しにつながる迎撃ミサイルの第三国移転」などが合意されました。また、「高江ヘリパット建設」や「普天間基地へのオスプレイ配備」なども強行されようとしています。

私たちは、こうしたなし崩し的な「解釈改憲」「戦争する国づくり」の流れを何としても止めなければなりません。そのため、国内はもとよりアジア諸国の人々と正しい歴史認識を共有し、人権を尊重する社会を建設することにより世界の人々から信頼を得ることが大切です。

私たちは、この集会を契機に、平和と民主主義を希求する勤労者・市民のみなさんと連帯を一層強め、日本を「かつて来た道」へと導くことを断じて許さない運動を推進していくことを確認し、本集会のアピールとします。

2011年8月15日

不戦の日！ 8. 15 北海道集会